

## 出席者名簿

### 地域協議会

NO	氏名	役職	地区	住所	備考
1	佐々木 正和	会長	国府	浜田市上府町	
2	村井 栄美子	副会長	周布	浜田市日脚町	
3	沖田 敏子	委員	国分	浜田市下府町	
4	細川 良一	委員	石見	浜田市長沢町	
5	肥塚 由美子	委員	石見	浜田市高佐町	
6	曾利 早美枝	委員	石見	浜田市河内町	
7	滝本 武夫	委員	石見	浜田市相生町	欠席
8	宮田 弘	委員	浜田	浜田市朝日町	
9	福原 ミユキ	委員	浜田	浜田市錦町	欠席
10	宮下 義重	委員	長浜	浜田市長浜町	
11	田子 ヨシエ	委員	長浜	浜田市熱田町	
12	新田 勝己	委員	周布	浜田市治和町	
13	小川 斌彦	委員	美川	浜田市内村町	欠席
14	新田 康子	委員	大麻	浜田市折居町	

### 浜田市出席者

NO	氏名	所属
1	近重 哲夫	副市長（浜田自治区長）
2	砂川 明	地域政策部長
3	西谷 雅宏	地域政策部 政策企画課 企画係長

### 事務局

NO	氏名	所属
1	河上 やすえ	地域政策部 まちづくり推進課長
2	永田 直久	地域政策部 まちづくり推進課 地域づくり推進係長
3	福間 裕介	地域政策部 まちづくり推進課 地域づくり推進係 主事

(開会 13時30分)

1 あいさつ

①副市長

②佐々木浜田自治区地域協議会長

2 議題(1)「市町村建設計画(新市まちづくり計画)の変更について」

【経過】

砂川部長から、新市町村建設計画(新市まちづくり計画)の変更について、説明・報告した。委員の皆さんからは意見、質問なし。

議題(2)次期浜田市総合振興計画の策定について

【経過】

西谷係長と砂川部長、次期浜田市総合振興計画の現在案について、説明・報告し、委員の皆さんへ意見を求めた。委員の皆さんからの意見、質問は以下のとおり。

(佐々木会長)

今部長の最後のご説明で人口の動態について詳細にご説明を頂いたとこのように思いますが、振興計画ということになると色々なものがあるように先ほどもご説明があったんですが、これ、人口の増減の云々もさることながら、他に何かキーポイントになるような施策的なものはございますでしょうか。

(砂川部長)

一つの成果として人口をいかに減らさないかということが大きな目標。今、国も地方創生とか先ほど申しましたように日本自体が1億人を維持したい。やはり人が減るとそれほど色んな社会生活に影響が出て来る、色んなことで出て来るということで、他の柱になることというのではないわけですが、ただ、人口減少対策のための色々なこれから色々な都市基盤整備、雇用の場をまず確保して、若い人が少しでも働いて地元に残るような努力をして行く。で、今おられる方が暮らしやすい、子育てや高齢者の方の暮らしやすいまちづくり等をやるということが重要なあということだと思っています。それと、これからだんだん高齢化が進んでいってお互いが助け合っていないと、色々災害の時とかですね、非常にこれからそういう今まちづくりということで先般フォーラムをやって皆さん参加頂いてるわけです、そういうことで地区まちづくり推進会やそれぞれの地縁組織等でいかに助け合っていってお互いが暮らしやすいまちづくりを、町を作っていくというようなことも大事なというようなことで今、それに対する施策をこれから作っていくかなければいけないと思っているようなところなんです。

(佐々木会長)

はい、ありがとうございます。今、部長のご説明ありましたように、一番の問題になるのはやはり、浜田市の場合は人口減少ということが喫緊の課題だということではないかと、斯様に思います。これについて皆さん方、まあ色々な策定についてでございますが、色々なご意見があろうかと、このように思います。ひとつ、どなたからでもよろしゅうございますので…はい、肥塚委員さん。

(肥塚委員)

9ページに自然動態の動向というのが出ているんですが、昔言ってた自然増のことなんですかね？

要するに、社会増と出生のあれとの。それで、ちょっと私市長さんにお会いしてお話しさせて頂くようお願いしてあるんですけども、市役所の方にも認識して頂きたいなあっていうのは、浜田市に限らず全国的な問題ですが、今の男性のいわゆる、これは性指導員として申し上げるんですけど、精子のね、勢いがいないために妊娠する能力が少ない男性が凄く増えて来たっていうのは色々問題になっているわけです。浜田もやはり、私の周りの若い男女と話をしても実感します。ということになればやはり、健康福祉問題部門のところでもっとそのことについて検討してほしいのですが、男性のいわゆる精子をしっかり力のある精子を作るような。私たち専門家は凄く危機感を感じているんですよ。ですから、そういうところで「じゃあ何が原因か」って言ったら大体お分かりのように食生活と、それから公害と、運動不足っていうのがありますのでそういうふうな発展をもっと力を入れていって問題視して頂いたほうがいいんじゃないかなと。例えば9ページの3番の少子化対策ですか、あそこに「出産人口の健康管理」とか「健康増進」とかっていうようなことをちらっと目標の中に入れて頂くといいかなと思います。後はまた、徐々に発言させて下さい。

(砂川部長)

今仰ったことを充分尊重しなければいけない、まあ入れる方向で検討を。各部で作っておりますので、また福祉、子育てとか少子化対策やっていると話をします。で、ご承知のように、例えば不妊症の方も色々な支援等もさせていただいているんですが、一方で先ず結婚をして頂く前の出会いの場も作らないといけんということで先ず婚活イベントを、一昨日も花火大会に浴衣で婚活みたいなこともやっております。肥塚委員さんが仰ったように確かに男性が弱くなっている部分があり、先ず結婚することに非常に女性にこう、接することに前向きではない男性が増えているということで、今草食男子とか色々言いますけれど、そののところから始めて、結婚して頂いて、今仰ったようにちゃんと子供を育てて頂くという、一連のトータルでものを考えていかなきゃいけない。今仰ったところは当然大事な部分ですので、その辺りはこれからちゃんと、充分協議をさせて頂いて、どこかで検討させて頂きたいと思います。

(細川委員)

先日、まちづくりフォーラムで川北先生から浜田の現状について色々話してもらったんですけど、浜田の税収は伸びず社会保障費がどんどん増えてくだろうと。そうすると、誰が市長になられても、浜田の現状維持は無理でしょうという話が出てきてがっくりきたんですけども。で、その中でですね、公共施設を半分を切るしかないでしょう、こういうふうに言われたんです。この施設の適正な配置の計画とこの総合振興計画との関係っていうのはどうなるんでしょうかね？

(副市長)

今、浜田市で公共施設というのは575施設ございまして、各市町村にそれぞれ同じような施設を沢山作っておりますので、統廃合が当然これから必要になってくるため、公共施設の再配置計画をこれからたてることになります。で、施設すべてを維持するというようなことで始めたら財源がとてもしませんので、これから色々な地域の皆さんに色々議論を頂いてこれから統廃合計画をしっかり立てて、残すべきものは残す、修繕である程度のことが出るものについてはそのようにするといった施設計画をきちんと立てないといけません。先ほどありました公共移設を解体する時も合併特例債は使えませんので、そういう計画の下でこれから立てていかなきゃなりません。それに合わせて、総合振興計画のほうについても、そういったことを配慮しながら計画の中に新たに設けるものについては考え方をしっかりして同じような施設についてはやっぱり廃止をするというような、やっぱりスクラップ・アンド・ビルドの考え方をいれ込んで計画を立てないと、財政としてはもたないということになりますので、そういう観点をしっかり持って取り組

みを進めなきゃならないというふうには思っております。

(細川委員)

この計画とは別なんですか？

(副市長)

はい、別です。

(細川委員)

位置付けがちょっと低いと。

(副市長)

公共施設再配置計画というのを新しくきちっとしたものを作ります。総合振興計画は色んな事業を色んな形でトータルでやりますが、公共施設の再配置計画は公共施設に関するものの計画ですので、位置付け低いということにはならないと思いますが、これをきっちり立てておかないと全体の財政計画も立てられませんので、その辺は重要な位置付けになろうかとは思っています。

(肥塚委員)

色々検討なさるとは思うんですけど、その計画の段階で地区民がちゃんと利用出来るような施設かどうかというのを色々検討して頂きたいと思うんです。今公民館なんていうのは、地区民が利用してる場所なんですけど、石見地区なんかを見ますと、17時半か18時にはもう職員は帰ります。で、後はみんなで閉めて帰って下さいっていうような、訳の分からないような利用法になってまして、「なんでそんなことになったのよ」って怒鳴り込んだら「いや、そういうふうに教育委員会のほうで言われたので仕方ありません」って、「三隅方式です」とか言ってましたけどね、やはり石見地区なんか特に大きいところですから、自分の地区を言うわけじゃないんですけどそういうふうなところはもっと利用者がどのくらいあって利用状況がどうなのか、要求してる割合はそういうふうなパーセンテージで利用したがるのかっていうところをとことんしっかり調べて頂きたいと思います。最近小学校の子供なんかを少し預かって欲しいなんていうような要望が出て、「ちょっと待ってよ、そんな、いかに公民館だと言っても小学校の子供を『お母さんが帰って来るまで見てくれ』なんてそんなところまで公民館は出来ないわよ」っていうような話になったり色々揉めてるわけなんですけど、そういうようなことを考えたらやっぱり公民館とはどういう機能…「何々はどういう機能を果たすべきだ」っていうようなことと、それからPR手法が必要だと思うんです。せっかく公民館があっても一回も行ったことがないっていう人があるし、奥のほうへ行くと「公民館ってどこにありますか」っていう人があるし、そういうところでもっと公共施設が云々って言う前に公共施設のPRももっとしっかりして頂きたいと思います。その上でやはりプラスマイナスである程度最終的な結論を出して頂かないと「あそこはあまり利用者がいないからカット」なんていうような考えでやって頂くと地区民が随分困るんじゃないかなと思います。

それともう1つは前も言ったと思うんですけども、市報ですね、浜田市報。あれをどのくらいのパーセンテージで見てるか見てないかなって思うんです。私もたまに忙しさにかまけて見落として、私の周囲の人に「あれがこうこうだったのにあんた何しよるん！」って叱られることもあるわけなんです。ですけども、全然と言っていいほど目をとおしてない市民っていうのは結構おられるわけですから、それなんかももっとどういうふうにしたら市民が喜んで見るか、数字だけを…数字と市長さんのご挨拶と数字だけで持っていくんじゃなくてもっと、まあ写真も入ってますけども、もっとなんかいい方法でみんなの目を引くようなことが出来ないのかなというこ

の2点についてお願いします。

(副市長)

公共施設については以前もいわゆる統廃合をしなければ持たないということで各施設ごとに担当課が予算とそれから利用者数、あるいはそういった細かいことをやって、地域の方も入って頂いた、そういった検討委員会を立ち上げて一つずつ、これは譲渡すべきだとか廃止すべきだとかという、そういう議論を一回やったことがあります。ただ、地域の人は地域の部分がありますので、私何回も言うんですが、総論は当然そうしなきゃいけないって言いますが、各論になると「それは駄目だ」というふうに言われてですね、今そういった関係の計画を立てようとしてもですね、なかなか上手く行っていないのが現状で、前に進んでなかった…一回やったことがあるんですけどね、なかなか前に進んでないのが現状なんです。ただ、そうは言ってもそういう時期は過ぎてしまってますので、これは再配置計画の中できっちり整理しないともう持たないという状況ですので、その辺はもちろん地域の方々の意見を無視するというではありませんので、そういう方の中にも入って頂いて検討する場合には協議をしっかりと、例えば行政だけで再配置計画立てるわけではありませんので、民間の皆さん、地域の皆さんも入って頂いてそれぞれ検討はさせていただきます。ただ、議論が反対の議論になりやすいというのは、これはもう否めない事実ですが、もうそうは言っていない時期に来ているのではないかというふうに私自身は思っております。

それから広報については確かに、あんまり文字と数字ばかりでは市民の方がなかなか見にくいというのも当然だろうというふうに思います。まあ、出来るだけ紙面工夫して目に飛び込みやすいような、そういった記事の配置や色んなことも担当がしっかりそういうことを考えながらやっていますが、なかなか色んなことを盛り込んで市民の方にお知らせをしたいという部分もありますので、その辺の兼ね合いだろうというふうに思います。出来るだけ皆さんに見て頂きやすいような紙面を少しずつでも工夫をしていかなきゃいけないというふうに思っておりますので、そういった取り組みは当然していく必要があるというふうに思っております。

(肥塚委員)

今のページ数が問題だと思います。というのは、こんなこと私が言うのも悪いけど、私がいた時代にだんだん、月に3回出していたのが2回になり、2回が1回になってるわけですから今、行政連絡員？ああいうふうなのがちゃんと位置付けられてますから、あの人たちに配って貰えばいいわけですから、もう少し、せめて月に2回くらいにされたらだいぶページ数も少なくなるからみんな読もうという気になるんじゃないかなと思ってみたりします。「みたり」よ。以上です。

(副市長)

それはまあ、1回にしたのは色々経緯もございますので、ただまあ、本当に興味持って頂かないと1回出そうが2回出そうが結局同じことだろうというふうに思いますので、市民の方がやっぱり行政のほうに関心頂いて、しっかりと色んなところで見て頂くというようなことをこっちもきちんとした取り組みをしないといけないだろうというふうには思っております。

(新田委員)

3ページの「小規模高齢化集落の増加による新たな地域密着」これ調整中になってるんだけど難しいだろうなあというふうに思いながら聞いてみたいと思います。今日周布の人口…資料を貰った時に10パーセント増えてる町内があるんですよ。小学校があるところが10パーセント、10年間で増えてる。その他にひどいところが600人いるところが500人に、100人落ちてるところがある、これは減った集落が、道路が出来たために移動してしまったという、そういうこともあるんだけど。集落の中で人が減ると、先ほど公共施設じゃないけども道路のね、市道の維持管理

すら町内で出来ないような状況が出て来るんですわ。町内合併をやってきましたが、対等合併したためにその作業だけはずっと引き継いで、市道の草刈りを含めてやっているんですが、共倒れになりそうな感覚になってしまう。だから少数集落と少数集落が一緒になったって何の問題も解決はしないかと思えますわ。問題があるところと問題があるところが一緒になってもどうにもならない。だからそういう意味では先ほどから雇用があるところに、学校が近いところに人が集まっているのでよく分かるんですが、やっぱりそういう方向も含めて人口の流れっていうのが、広島に行かせるんじゃなくて浜田市内の中で受け皿を作るような、そんな準備がいるんじゃないかなというふうに思います。でないと、限界集落では生活そのものが出来ないというのが随分言われてると思うんですからそれに近い状態が私たちの周辺で起きてきている。そういう意味では集落の崩壊っていうのをどうやって食い止められるのかなあって。前進があるとは思えんですが、食い止められるのかなあっていう、あるいはその手当をどうされようとしているのかなあっていうのが1つだけ聞いてみたいと思います。

(副市長)

非常に難しい問題ですが、地方都市全てが色んなところで大きな課題になってることだろうというふうに思います。小さいところと小さいところというのは確かに仰る通りだろうというふうには思いますが、なかなかそれを今度は高齢者の多いところの地域コミュニティをどうするかっていうのはしっかりこっちも考えておかなきゃいけないということで、これだっというヒット策があればいいんですが、なかなかそういう部分が出来ない、これはまあ地道な取り組みをしていかなければならんだろうというふうには思っております。で、先ほど外へ出て行くという話なんですけど、色んな…高校だとか色んなところでお話を聞いたりすると、子供さんを地元というよりは一旦外へ出すことを親御さんが勧めておられるというような話を聞きます。で、石見の気質もそうなんかは分かりませんが、一旦は外へ出すんだということで、子供さんが残りたいというより親御さんが「一回外へ出ろ」というふうに進学にしても就職にしても勧められるんだというふうなお話を聞きました。で、それも、今までのそういう流れもあったんだらうというふうには思いますが、それは小さい時からの教育をそういった部分ではしっかり取り組みを進めていかなければいけない部分があるのかなあというふうに思ってます。で、小さな、これから教育の積み重ねもそういった部分では、地域を大切にするとする部分を更に作っていかないとはいけません。で、答えに全くなっていませんが、なかなか今の高齢者少子化のグラフを減らすことっていうのをなかなか今、すぐにこれといった政策がないのが現状ですので、色々ご意見をしっかり頂きながら、出来るだけ行政のほうでそれに対応出来る部分については対応していくようにしていかなきゃいけないんだらうというふうに思っております。

(村井副会長)

浜田自治区とよその自治区との違いっていうのが、よその協議会の人と話していてよく分かるのは、先ず公民館の在り方が全然違うってことなんですよね。公民館においてまちづくり計画を作ったりとか、公民館主体での、そこに行っのまちづくり計画を作る、色んなところと公民館によって、公民館が主体となっている話し合いが多いわけですね。それが浜田自治区においては公民館とまちづくり委員会とは全部別。というところで公民館、まちづくり、自治会っていうのが一本化になってないっていうところに浜田自治区の一番の難点があるんじゃないかな。まちづくりも出来上がってこないっていうのもそこら辺にあるんじゃないかな。今現実に浜田自治区の中でちゃんとしたまちづくりがあるのは僅かなところですね、後は町内会か少数単位のまちづくりしか出来てないっていう感じで、やっぱり公民館という枠じゃなくてコミュニティみたいな枠があればもうちょっと人も寄れるし、集まれるし、若い者も年寄りも一緒になって、って先ほど肥塚さんが言われたように「子供ちょっと見て貰えんか」って言っても、正直言っ

て周布公民館なんかでも、時々私たちが集っている時に子供さんが学校から帰りに寄られます。お母さんが帰りに連れて帰るよってという感じで。でも、5時15分になったら閉められますので、じゃあその子供どこ行くの？ っていう感じ。コミュニティなら「まだちょっと時間あるかな」っていう、そういうコミュニティがやっぱり浜田自治区においては先ずなければ難しいかなあ。地域振興、生活基盤というところで。そんな中で一つ一つ積み上げていかないと、何を目標に持っていったいいのか。産業、生活、地域振興…産業言われると魚かなあと思うし、やっぱり地域みんなが元気でないと人も動かないし、子供の数って結構浜田って、出生率は、川北先生の話ではやや高かったんですね。まあいいだろうという話。確かに周布地区は増えています。子供の数が割とこう、住宅も増えてますし、こんなに子供がいるんだっていう現状はあるんですけど、それはやっぱり町の中…周布でも町の中だけっていう感じになりますので、やっぱりそういうコミュニティの場がもう少し、浜田自治区においては欲しいかなあ。それによってまた次の考えが出来るんじゃないかなって今。これは常に私がどこの場所でも言わせて貰ってることなんですけど、そういうこともまた考えてみて欲しいと思います。

(砂川部長)

はい。ちょうど今日、参考に…浜田自治区の子供、一枚紙、今村井副委員長さんに仰って頂いた、後ろに「活力ある地域コミュニティの形成」というテーマがあります。これは私ども執行部が叩きとして出しているわけですが、今おっしゃった通りで公民館といっても浜田地区も広うございますし人口も多い。石見も、肥塚委員さんがおっしゃったようになかなか難しいということ、周辺部はみんな公民館単位小学校校区で地区まちづくり推進会を作るとちょうど手ごろというか、集まりやすい。地縁の関係も充分出来ているということで、それで出来ていったわけですね。で、浜田自治区でも出来ているところもあります。ただ、やはり人口の多いところへは今の括りでは難しいというのを正直私どもも感じています。で、これまではそれをベースに全てをお願いしていたということですが、お示ししておりますご案内の通りまちづくり総合交付金を今見直す作業をしております。それに合わせてまちづくり委員会の基準もですね、後ほどまた課長のほうから説明すると思いますけれども、少し見直しをしながら地域の実情に配慮した組織づくりが出来ないかなということは今考えております。で、公民館は今、社会教育中心に、社会教育以外のこともやって頂いておりますけれどもやはり、公民館としての色々な法律のこととか市の教育委員会の考え等もあって、当然限られた範囲内でやっておりますので、そうではなくてコミュニティセンター化ということも今出来ないか、どういうふうにするかという一番合う方法はどうかということも教育委員会と私どもまちづくり推進課が議論しております。具体的に言いますとそれぞれの地域で、公民館でずっといたほうがいいのか、コミュニティセンターにしてしまうのか、両方一緒か、コミュニティセンターの中に公民館を残すとか色々な方法を考えて、地域の皆さんと一緒にその辺を議論して、皆さんが一番、集まって色々なまちづくりをしやすい仕掛けをしていきたい。当然そのエリアか今の方法ですね、それを今、これから議論していこうということで、まちづくり推進課というこの4月から課の名前も変えまして、やっぺいこうと思います。今頂いたご意見というのは本当、長年ですね、大きな課題になっておりますので、すぐ、27年度28年度で全て解決出来るとはなかなか言えないこともありますけど、そういう方向で努力をしていこうという気持ちを持っておりますし、是非浜田自治区の、その自治区独自のページにはそういうことを出来れば書きたいなと私どもも思っておりますし、それについて今日ご出席の委員の皆さんもまたご意見を頂ければと思っております。

(宮下委員) 失礼します。やはり若者が働く場所とかね、そういうものを作る必要があると思うんですよ。っていうのはね、今度産業振興の中でも総論ばかりでね、核論を欠いてるばかりで全く浜田の具体的な核に入っていると少くないですね。もうちょっと私はね、ちょっと前から言

っていますが、港の施設も10年くらい空いていて何も使ってないんですよ、再利用。ここにヨットハーバーというか、そういうのを作って、学生が来て広島に遊びに行くよりは浜田で遊べるような、アルバイトが出来るような場所。やっぱり浜田にはそういう大きいものもってます。で、先日も水上空港ネットワーク構想という、水上飛行機持ってきてやりましたよね。あれなんか全国の港則法で決められてる港では浜田が初めてやったんですよ。よそでやろうとして駄目だと言われたやつを浜田はやりました。だからこれをきっかけにね、そういうものをやると小口の観光ルートが出てくるんですね。そういうことでね、僅か10人20人でも観光ルートが出来る。やっぱりそういうところにもっと向かってやっついていかないと。市長さんね、海海言われるけど全く海の関心薄いんですね。クルーズ船とか客船の誘致、そりゃ境港と浜田は全く違うんですよ。これは船会社の都合で来てくれるだけでクルーズの誘致活動になんぼ金かけてもそれ以上増えません。だからね、コンテナ航路も週1便しかないんだからね、これ以上増やすのは無理なんですよ。従来こんなに外交ばかりやっているんですよ。海外に行き、東京に行き、大阪に行っているいろいろやられてますけど、よそはちゃんと港持ってますからね。浜田は浜田の特徴あるやつを本気でやって貰わないとね、やっぱり浜田は発展しませんね。その辺を特に私はお願いしたいと思います。以上です。

(砂川部長)

先般、海の日とか色々ご尽力頂いて、そういう取り組みも積極的にやって頂いたということで市長も色々させて頂いておりますし、そういうことも当然、浜田はやはり海、港をいかに活用出来るかということも、町が元気になる大事な要素だと思います。その辺は充分配慮した計画を作って行きたいと思っております。ただ、浜田自治区ということではなく、このことは浜田市全体として捉えたいと思っております。そういう、最も浜田市の重要な課題であり手段、資源であると思っておりますので今、そういう方向で総合振興のほうも検討させて頂ければと思っております。

(宮田委員)

折角来とるんだけん、何も言わんで帰るのは無しかないと。まあ、今日の事については、あんまり細かいことは市会議員の先生がいらっしゃるのに私ら計画に口出しする筋合いはないだろうと、まあ今日の会議はこのチラシの、今浜田市自治区のコミュニティの形成、本当はこれがしたかったんだろう。やっぱり総論ではなくてね、もうちょっと各論で攻める、そうすれば私らも折角来た甲斐があるというような気がします。先ほどあったように地域はやはりコミュニティ、この旧浜田市はそこそこにやっておられるけんまあええかと。で、中でも一番ひどいのは浜田地区です。本当は人口が一番多いはずなんだよな。やっぱりそこら辺でなかなか固まらんとあかんかなと言うたらやっぱりコミュニティの形成を昔は町内会は何だかみんなでやりよったのが、人口の移動があつてバラバラになったんですね。やっぱりその辺を行政が云々言う前に、生活に密着した皆さん方がある程度固まって何かするという、あんまり公民館の法律は何だといって縛らないで、もうちょっと人が集まってちゃんと出来るようなことが、簡単なようでこれが一番先じゃないかなというふうに思うんです。正直な話、朝日町なんか、自治会と町内会と商店街とかなり一緒になって、しかも皆で使える会館をわしらで作ってやとった。浜田市の中では一番コミュニティづくりやとるようなつもりだけど、これも大したことはないんだ。商店街は26しか組合員もおらんし。所帯数は300くらいあつてかなり多いんだけど。超過疎高齢化という中で、やっぱりそこまでなつて来たら高齢者の女性の方に、もうちょっと町に出て、お互いのそういうコミュニケーションの場を作って欲しいなあと思います。大層なことはしなくてもいいですけど、さっき話がでた子供面倒見ちゃるとか、銭金ではなく、そういうようなグループづくりをせんといかんのかなと。まあ、あまり行政に頼らなくてその自分の住んでるとこは自分の住んで

るところで何とかするというグループ作りをする。となると昔は婦人会ちゅうのがあったんだが今でもあるのだろうか？

あるのはあります。

ありますけど浜田の町のほうの方は参加してない。

(宮田委員)

そのことわしが言うんだあや。それがいいけん、旧浜田はバラバラになつとるところがある。まあ今のままでも苦しくないけんバラバラになつとるんであって、苦しくなれば集まるかも知らんですけど、いずれにしてもそういうコミュニティ作りは非常に必要なんで、何とか「町内が何百人にならなければ助成金は出しません」とかそんなめんどくさいこと言わんで、「ある程度20人くらいの婦人の集まりにはそこそこのお金は払いますよ」という軽い縛りで各町内を歩き回ったほうが、その中で「こういうもの一緒にやってみようよ」というのがあればそれをコーディネートするのがお宅らの仕事なんだと思います。それまでわしらにせえ言うのはちょっと虫がいい気がするんです。

(新田委員)

すみません。大麻地区なんですけど、大麻地区は人口が少ないですけど公民館、婦人会、子供会は今ないですけど、まちづくりなんか全部一緒に、凄く活発にやっております。大麻地区は小さい…この道が出来たために10軒は家が周布とかなんかに行つて少なくなりましたけど、子供の人数が最近、なんか多いように感じますけど、小学生が。夕方になると子供が前のほうでボールを投げたりして遊んでますからね。だから少ないところは少ないなりにやっているので、みんなで自治会も子供会も婦人会もみんなでまちづくりをしております。大麻地区は。

(河上課長)

宮田委員さんへの答えなんですけど、浜田自治区の住民の方が全員宮田委員さんのようなお気持ちを持っておられたらもう、明日にでも大変素晴らしいまちづくりが出来るとはならないかなと今、思いながら聞いてたんですけど、皆さんが一人でもそういう思いを持って頂けるようにやっ行ってかんやあいいけんあと思います。この後で、資料3で係長のほうから説明は致しますが、今そういった形で仰る通り、浜田にはあまり、他の自治区と同じようなガチガチの枠で同じレベルでまちづくりを進めて行きなさいと言っても本当に無理だということを私たちも重々分かってきましたので、その辺は柔軟にやりながら、先ほど言われたように私らが強制で「ここここが一緒になってやらにゃ駄目」とか言うんじゃなくて、皆さんの中で私らがちょっとこう、お手伝いをしながら話し合いの場を持って貰って、少しずつ大きい和になって、ある程度の色んなことが出来やすいエリアを作つて行けたらなと思いますので、ここにおられる委員さんがすみませんがちょっとその辺は私らに力を貸して頂いて、その辺りを一緒になってやっ頂ければと思いますのでよろしくお願ひします。そういった形だと浜田自治区のページにももう少し、今言われた内容なんかを入れながら、もう少し具体的にして行ければと思いますのでよろしくお願ひします。

議題(3)地区まちづくり推進委員会の設立状況について

【経過】

永田係長より、地区まちづくり推進委員会の設立状況について、説明・報告し、委員の皆さんへ意見を求めた。委員の皆さんからの意見、質問は以下のとおり。

(佐々木会長)

はい、ありがとうございます。今、係長のほうから説明がございましたように、若干制度も変わり、名称も変わっておるように思いますが、現在も複数自治会、ここの200世帯が150になったということもですが、複数ということで非常に分かったような分かり難いところがあるので、もう少し詳しく説明して頂ければと思います。先ほど宮田委員さんが言われたように、町だ言うとしても小さい町内ということが可能じゃないかなという気がするんですが、その辺をもう少し詳しく説明して下さい。

(河上課長)

今までは複数自治会という名称が…名称だけの問題かというところなんですけど、複数自治会っていったらある程度沢山の町内で集まっておられるということで、そこに「人数分だけの交付金はあげましょう」というような感じだったんですが、今度そういう人たちも「まちづくり委員会」という委員会に認定して、「それでまちづくりを考えて下さい」という、そういうお仕事もお願いしたいと思います。その代わり、まちづくり委員会ですので、交付金も今までの町内単位で町内が何個あるけんなんぼです、っていうのに加えてまちづくり推進委員会としての上乗せ部分を差し上げて、ちょっと一緒に考えて頂ければなというところの、オマケが付いてると言ったらおかしいですが、そういう意味もありまして、こういう括りにさせて貰いました。

それでですね、今うちのほうで各町内ごとの、町内カルテではないんですけど、私のほうでちょっと各町内のシートみたいなのを作って、その町内のキーマンになって頂ける方とか、今までの経緯とか、どのくらいの単位だったら一緒に出来るだろうかなというのを試算しましたら、これくらいの単位でまちづくり委員会を作れば、多分皆さんと一緒に活動出来る範囲で、ある程度はまちづくり委員会に浜田自治区もなって頂けるんじゃないかなという、逆算してこの世帯数をいれたところなんです。ですから、例えば今複数自治会のままでおられる朝日町でありますとか、後は久代の辺りでありますとか、そういう形である程度まとまって「頑張っちはおられるんだが今までの要件では足りんから」ということで複数自治会の扱いになって、「一つの町内に幾らですよ」という基礎部分しか貰っておられなかったところに、一緒になってまちづくりを考える上乗せ部分、「その代わり一緒に考えて下さい」という部分を持ってもらおうかなあという考えです。多分今の中では無理のない括りで今はやっているつもりです。ただ、どうしても、さっき係長が言いましたように、「もう絶対よそと一緒にやる気はない」とか「もう自分のところは自分のところにする、お金なんかいらんからほっといてくれ」とかいうところまでは今のところはなかなか難しいので、それは今から攻めていくと言いますか、少しずつ「どうですか」と話し掛けをしていかなきゃいけないなというところなんです。

上乗せっていうのは事務費が出るっていうことですか？

(河上課長)

今まだそれもちょうと、今日はですね、これも案なんですけど、あくまでもこれは事務局案なんですけど、今検討委員会のほうで、色々とその辺もどれくらいだったら、どの部分をどれくらいにしたらいですかとか、色々話し合いはしているので、今はちょっと一例として言ったんですが、イコール事務費になるかどうか分かりませんが、例えば委員会で「新しい事業、こんな事業あります」って事業企画出して貰ったらそれにあげますとか、そういうやり方になるかも知れませんが、そういう委員会を作ったことによって少し恩恵があるような感じにしようというところまでしか、すみません、今は申せませんが。

はい。分かりました、ありがとうございます。

(細川委員)

市長は従来から 28 年度分についても交付金は出しますと、ただ、額については切りますよと、億は切りたいということは 9000 万…9000 万にするか 8000 万にするか知りませんが、この案を見るとまちづくり委員会がいっぱいできちゃって、我々のもらえる交付金が少なくなるんじゃないかと、その心配してるんですけどね。委員会がたくさんできて事務局費を出すといったら、今やっとなまちづくり委員会への額は減って来ると心配してるんですが、そこら辺は充分注意して頂きたいと思います。

(河上課長)

ただ…申し訳ありませんけど、全体的に「長沢だけが下がりますよ」じゃないですが、全体的にはなんぼか下がるとは思って頂かんといけんかなと思います。まあ 5 年間、そのために 5 年間ちょっと頑張って下さいということで、かなりのお金を皆さんに出して、ちょっと組織作りを 5 年間でやって頂いたと思っておりますので、あと、また少しはちょっと、交付金がなくても何とか運営が出来るような組織作りも少しずつ考えて頂ければなと思います。ただ努力はします。

(佐々木会長)

はい、いずれにしても市の財政的なことから減額になるというというのは、これはまあ皆さんも一般にご承認をされるんじゃないかと思うんですが、私が生意気なことを言ってもどうにもなりません、まあその辺はひとつ、これから大いに努力をして頂くということで、お願いしたいと斯様に思います。まだご発言のない方もおられますが、何かご意見、ございますか。

(沖田委員)

私下府ですが、下府の自治会にまちづくり委員会として出ていますが、皆年配の方ばかりなんですよね、長になられる方は。そうしますと若い方の…まちづくりですから若い人のチームで何か出来ないだろうかというような考えがあるんです。ところが、組織がございせんから出て来てません。もう、年配の方ばかりの集まりですが、まちづくりとなりますとやはり若い人の青年部でもいいから一つ出て来てやって欲しいなという考えがあるんですよね。ですが私のほうから、婦人会のほうも年配の私が出ておりますからあまり偉そうなことは言いませんけど。出来たら若い方が出て欲しいという、私はまちづくりで出来たら本当に若い人出て頂きたいと思います。それには青年部でもいいですし、何か若い人の名目の付いた何かが出て来て欲しいという希望を持ってるんですが、ただそれだけです。

(河上課長)

本当にその通りで、私たちが使命を…次の時代の地域を担うリーダー作りというのを私たちに課せられた課題であると思っています。良いご意見を頂きましたので、例えばまたその交付金でもそういう青年団とか女性会とかそういった部会を持っていけばちょっと上乘せしますとか、まあ、それは今私が勝手に思いついたことなので、皆さんの中で承認されるかどうかは分かりませんが、何かそういうふうになんかちょっと頑張ってる所にそれなりの効果があるお金を差し上げられるような、ちょっと仕組み作りをなるべく努力してやっていこうと思いますのでまた本当に皆さんにも浜田自治区はこれからのまちづくりは皆さんの肩にもかかっておるとお思いますので、是非ともご協力をよろしくお願い致します。

(砂川部長)

ひとつよろしいでしょうか。今日、委員の皆さんにお願いというかご了解をいただいておりますが、先ほど浜田自治区の総合振興計画による自治区ごとの振興のところのペーパーを今日お示

しさせて頂いて色々議論を頂いて、今日各委員の皆さんから頂いたご意見はやはりまちづくりコミュニティをどうするかとかそういうご意見が多かったのではないかと。まあ、そのやり方とか今後の内容をまた検討させていただきますが、浜田自治区の今の自治区別のこのページのところをですね、他の金城から三隅までまちづくりとか農業振興とか観光とかをそれぞれ考えておられるところあるんですが、基本的には浜田はコミュニティ、ここに書いてありますが活力ある地域コミュニティの形成ということの一つの柱にして、その中身を少し私ども事務局で案を作らせて頂いて次回の会議でお示しさせていただきますご議論頂くということでご了解を頂ければと思いますがいかがでございましょうか。

(佐々木会長)

はい、異論はないようですのでこの辺でひとつ、締めて頂ければと思います。

(副市長)

それでは、大変長時間に渡りご審議頂きましてありがとうございました。これからの総合振興計画もしっかり考えていくことになろうかと思っておりますので、ご協力のほうよろしくお願ひしたいと思ひます。本日は本当にありがとうございました。

(閉会 15時15分)